

各事業における広葉樹に関する事例

公益的機能の
維持・増進

供給体制
構築

流通
効率化

需要拡大

教育・普及

⑤ 森林を活かす都市の木造化等促進総合対策事業

流通チャネルの多角化による北海道上川地方産広葉樹等の需要拡大

取組成果

- ◆これまで一般材としての活用が少なかったトドマツ認証林に自生する広葉樹についても、丁寧な選別や小規模需要者への供給機会の提供等により木材としての価値向上が図られた
- ◆展示会では試作広葉樹家具等への好意的な感想が多く得られ、広葉樹の魅力を多くの人にPRすることができた。さらに、当該製品を切り口として、出材元の認証森林及び認証制度、他の森林認証製品に対する関心・理解を得られた

事業概要

- ◆ 実施地：北海道下川町
- ◆ 事業実施主体：上川地域水平連携協議会
- ◆ 連携機関：下川町、下川町林業林産研究会、北海道立総合研究機構林産試験場、株式会社ハギヤ、(一社)北海道林産技術普及協会
- ◆ 事業実施年度：R5

取組のポイント

- ◆多様な主体が連携し、トドマツ認証林の伐採に伴い出材され、これまで低質材として扱われてきた広葉樹の中から、形状等の良いものを選別し、原木市場での取引を検証
- ◆多品種・小ロットでの出品や小規模事業者の参画が可能な「競り売り」による広葉樹材の確保、試作した家具等の展示会出展を通じた多様な需要者へのPRなど、流通チャネルを多角化



【トドマツ認証林から出材され、選別された広葉樹の競り売り】

取組内容

広葉樹材の流通チャネルの多角化

- ◆トドマツ認証林の主伐時に出材された広葉樹の競り売りで、シラカバ、クルミ、タモ丸太を落札、別途ハンノキ丸太も入手※
- ◆家具会社等に依頼し、上記広葉樹丸太からスツール、テーブル、カッティングボードを試作
- ◆試作品を北海道産木材製品ブランド「HOKKAIDO WOOD」に登録、ロゴマークを付して「WOODコレクション(モクコレ)2024」などの展示会に出展

※ 本取組の認証林由来ではないが、林道沿いに多く自生していること、大宗がパルプ材利用であること、多様な広葉樹の活用が重要であることを踏まえ、一体的に検証することとした



【広葉樹製品試作品】



【展示会の様子】